

旅の一句

名句鑑賞

たんぽぽや長江濁るとこしなへ

山口 青邨

長江は、中国最大の川、揚子江の下流をさします。豊かな歴史を持つ長江とたんぽぽの取り合わせが、脈々と流れる姿とその営みの風景をあらわしています。季語は「たんぽぽ」で春の句です。



蟻の道雲の峰よりつづきけん

小林 一茶

わき上がる入道雲。どこまでも続く蟻の行列。黒と白、小さな蟻と大きな雲との対比がすばらしいです。季語は「蟻」で夏の句です。

西国の畦曼珠沙華曼珠沙華

森 澄雄

曼珠沙華は、秋の彼岸の頃に咲くので、「彼岸花」とも呼ばれています。同じ言葉を繰り返すことで、群がって咲いている姿がよく伝わってきます。季語は「曼珠沙華」で秋の句です。

鷹一つ見付けてうれし伊良古岬

松尾 芭蕉

愛知県渥美半島の先端にある伊良湖岬は、十月初旬から鷹の渡りがみられ、その壮観な姿を詠っています。季語は「鷹」で冬の句です。

俳句と川柳について

俳句と川柳は、ともに『五・七・五』の十七音を基本型としてつくられています。

俳句には、季語や切れ字があります。川柳には、そのどちらもありません。

季語や切れ字のある俳句は、提示された作品の世界を豊かに想像したり、余韻を味わったりすることができます。

季語・切れ字は、俳句を鑑賞する時のたいせつな手がかりとなります。

国技館たった二人に此騒ぎ

久坊

右の川柳には、季語・切れ字がありません。しかし、言い切るにより、わかりやすさや滑稽さがよく伝わってきます。



子どもの俳句から

春

卒業と名の付く旅に乗る私

小学生

小林

綾



鑑賞のポイント

☆卒業を旅にたとえています。私の気持ちをいろいろ考えてみましょう。季語は、「卒業」です。

先生を見送りに行く春の雨

中学生

波多

美幸

☆先生との別れの時に雨が降っています。雨がその時の心情を表現しています。季語は、「春の雨」です。

夏

ぼくの手が星空にぎる隠岐の夏

小学生

清水

一力

☆隠岐の島での星空との出会いです。「にぎる」と感じる時は、どんなときでしょうか。季語は、「夏」です。

ふくらんだかばん枕に夏を聞く

中学生

中谷奈保子

☆ふくらんだかばん。枕。聞く。いっぱい。しまった気持ちを考えてみましょう。季語は、「夏」です。

夏の雲海の手のひらなくさめる

中学生

岩瀬恵美子

☆「なくさめる」だが、だれを、どうやってなくさめるのでしょうか。季語は、「夏の雲」です。

秋

すすきのほくしゃみしそうなお月さま

小学生

東山 奈央

熊野路のみかん一山動き出す

小学生

西山 好博

秋の海おもわずだまる水平線

中学生

濱口 由佳

冬

しもの朝きくにかささすおばあさん

小学生

中川 真一

白い息祖母はホームで手をにぎる

中学生

渡辺みゆき

鑑賞のポイント

☆くしゃみしそうなお月さまって、どんな時なんでしょうか。だれといるのでしょうか。季語は、「すすき」です。

☆山が動く、そんなふう感じたのは、どうしてでしょう。季語は、「みかん一山」ひとやまです。

☆だれと海をみているのでしょうか。「おもわず」と表現したことを大事に考えてみましょう。季語は、「秋の海」です。

☆おばあさんの朝の姿をよくとらえています。どんな気持ちでやっているのでしょうか。季語は、「しも」です。

☆白い息と手をにぎるあたたかさ。話していることはどんなことでしょうか。季語は、「白い息」です。

